

安全データシート (SDS)

1 化学品及び会社情報

化学品の名称

製品名

キズ職人(No.1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 591)

会社情報

会社名

株式会社 キャンディールデザイン

担当部署

商品管理部

住所

〒216-0003 神奈川県川崎市宮前区有馬8丁目3-11

電話番号

044-863-9112

Fax 番号

044-863-9113

推奨用途及び使用上の制限

キズ修正用クレヨン

2 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

分類できない

健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷性又は

眼刺激性

区分 2B

発がん性

区分 2

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

区分 1(呼吸器)

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

区分 1(呼吸器)

環境に対する有害性

分類できない

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

眼刺激

発がん性のおそれの疑い

呼吸器の障害

長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器の障害

注意書き

[安全対策]

使用前に取扱説明書を入手すること。
 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
 取扱後はよく手を洗うこと。
 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

[応急措置]

皮膚に付着した場合：多量の水と石けん（鹸）で洗うこと。
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。
 気分が悪い時は医師に連絡すること。
 皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診断、手当てを受けること。
 眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。

[保管（貯蔵）]

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
 施錠して保管すること。

[廃棄]

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

他の危険有害性
 情報なし

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別
 混合物

組成及び成分情報

化学名又は一般名	CAS 番号	官報公示 整理番号	濃度又は濃度範囲 (wt%)
固形パラフィン	8002-74-2	8-414	25-35
流動パラフィン	8042-47-5	9-1692	2-5
タルク	14807-96-6	-	15-23
酸化チタン	13463-67-7	1-558	1-7

4 応急措置

ばく露経路による応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させ

皮膚に付着した場合	ること。 症状が続く場合には、医師に連絡すること。 水と石鹸で付着した部分を洗うこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
眼に入った場合	水で 15～20 分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	水で口をすすぎ、直ちに医師の診断を受けること

応急措置をする者の保護

救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。

5 火災時の措置

適切な消火剤

水噴霧、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素を使用する。

使ってはならない消火剤

火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。

特有の危険有害性

一般的な注意として、粉末状物質の場合は、ある条件下では粉じん爆発を起こす可能性がある。

特有の消火方法

火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
延焼の恐れのないよう水スプレーで周囲のタンク、建物等の冷却をする。
消火活動は風上から行う。
火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、適切な自給式の呼吸器用保護具、眼や皮膚を保護する防護服（耐熱性）を着用する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業者は適切な保護具（「8 ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

大量に水で溶解した場合は、汚染された排水が適切に処理されずに外部環境へ流出しないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

処分に適した密閉容器に回収する。
すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	「8 ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。
安全取扱注意事項	落とす、衝撃を当てえるなどの乱暴な扱いは避ける。 火の近くに置かない事。
接触回避	「10. 安定性及び反応性」参照。
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

技術的対策	保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設備を設ける。静電気放電に対する予防措置を講ずること。
混触禁止物質	「10. 安定性及び反応性」参照。
保管条件	高温、多湿を避け室温で保管する。
容器包装材料	破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。

8 ばく露防止及び保護措置

管理濃度

管理濃度	$E=3.0/(1.19Q+1)mg/m^3$ (タルク) Q 当該粉じんの遊離けい酸含有率%
------	--

許容濃度 (ばく露限界値、生物学的指標)

ACGIH TLV-TWA (2015)	10 mg/m ³ (二酸化チタン) 2 mg/m ³ (タルク)
日本産業衛生学会 (2015)	第2種粉塵：二酸化チタン (吸入性粉塵) 1 mg/m ³ (総粉塵) 4 mg/m ³ 第1種粉塵：タルク (吸入性粉塵) 0.5mg/m ³ (総粉塵) 2 mg/m ³

設備対策

粉じんが発生する作業所においては、必ず密閉された装置、機器または局所換気装置を使用する。

保護具

呼吸用保護具	通常必要ないが、必要に応じて保護マスクや呼吸用保護具を着用する。
手の保護具	適切な保護手袋を着用する。
眼の保護具	眼に入る恐れがある場合、保護眼鏡やゴーグルを着用する。

皮膚及び身体の保護具

必要に応じて保護衣、保護エプロン等を着用する。

9 物理的及び化学的性質

外観（物理化学的状態、形状、色など）	着色棒状固体
臭い	ワックス臭
臭いの閾値	情報なし
pH	情報なし
融点・凝固点	60~70℃
沸点、初留点及び沸騰範囲	情報なし
引火点	情報なし
蒸発速度	情報なし
燃焼性	可燃性
燃焼範囲の上限・下限	情報なし
蒸気圧	情報なし
蒸気密度	情報なし
密度	1~1.3 g/mL
溶解度	水に不溶
n-オクタノール／水分配係数	情報なし
自然発火温度	情報なし
分解温度	情報なし
粘度	情報なし

10 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性	通常の手扱い条件下では安定である。
危険有害反応可能性	通常の手扱い条件下では危険有害反応を起こさない。
避けるべき条件	直射日光、長時間加熱、火炎、発火源
混触危険物質	酸化剤、強酸類
危険有害な分解生成物	データなし。

11 有害性情報**製品の有害性情報**

情報なし

成分の有害性情報**固形パラフィン**

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性
ウサギ試験で slightly irritant 及び mild irritant の結果。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）
ヒュームで気道刺激あり。

流動パラフィン**急性毒性（経口）**

ラット LD₅₀ > 5,000 mg/kg
よって急性毒性区分外に分類される。

発がん性

高精製油は IARC グループ 3 (人に対する発がん性について分類できない) に該当する。流動パラフィンは高度精

<p>吸引性呼吸器有害性</p>	<p>製油より精製度が高い物質である。 よって発がん性区分外に分類される。 動粘度 20.51 mPa/s 以上の炭化水素である。 よって吸引性呼吸器有害性区分外に分類される。</p>
<p>タルク</p>	
<p>急性毒性（吸引） 発がん性</p>	<p>ラット TCLO=17mg/m³/6H/26D-1 タルクは IARC グループ 3 (人に対する発がん性について分類できない)に該当する。 不純物の結晶シリカは IARC グループ 1 (人に対する発がん性がある)に分類される。</p>
<p>特定標的臓器毒性（反復ばく露）</p>	<p>長期にわたる、または反復暴露により肺に影響を与えじん肺を生じる可能性がある。</p>
<p>酸化チタン</p>	
<p>急性毒性（経口） 急性毒性（経皮） 急性毒性（吸入：粉じん／ミスト） 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 発がん性</p>	<p>ラット LD₅₀>20,000 mg/kg ウサギ approxLD₅₀>10,000 mg/kg ラット LC>6.82 mg/L/4h ウサギを用いた試験で軽度の刺激性（mild irritation）との結果が得られている。 IARC ではグループ 2B に分類されている。</p>

12 環境影響情報

製品の環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

成分の環境影響情報

流動パラフィン

水生環境急性有害性	魚類(ブルーギル)の 96 時間 LC ₅₀ >10g/L よって区分外に分類される。
水生環境慢性有害性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

13 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送 (ADR/RID の規定に従う)

国連番号	該当しない
品名	該当しない
国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない

海上輸送 (IMO の規定に従う)

国連番号	該当しない
品名	該当しない
国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない
海洋汚染物質	該当しない
IBC コード	該当しない

航空輸送 (ICAO/IATA の規定に従う)

国連番号	該当しない
品名	該当しない
国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない

国内規制

陸上規制情報	該当しない
海上規制情報	該当しない
海洋汚染物質	該当しない
航空規制情報	該当しない

緊急時応急措置指針 (容器イエローカード) 番号
該当しない

特別の安全対策：

輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15 適用法令

労働安全衛生法	名称等を通知すべき危険物及び有害物質（固形パラフィン、流動パラフィン、酸化チタン） 名称等を表示すべき危険物及び有害物質（流動パラフィン、酸化チタン）
海洋汚染防止法	油分排出規制原則禁止(流動パラフィン) 有害液体物質 Y 類物質(流動パラフィン、固形パラフィン、)
水質汚濁防止法 下水道法	有害液体物質 Z 類物質(酸化チタン) 油分排出規制（流動パラフィン、固形パラフィン） 鉱油類排出規制（流動パラフィン、固形パラフィン）

16 その他の情報

参考文献

NITE GHS 分類結果一覧
原材料メーカーSDS

【注意】本 SDS は、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。本 SDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて改正されることがあります。また、注意事項等は通常の実施を前提としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。